

令和4年度 徳島県地域介護総合確保推進協議会
議事概要

1 日時・場所

令和4年11月4日（金）午後2時から午後3時まで
Web会議

2 出席者

委員29名中22名出席（代理出席含む。）

石田いぶき委員、大塚忠廣委員、岡田あかね委員、清田麻利子委員
佐藤正委員、田蒔正治委員、田村綾子委員、田村修司委員、富樫一美委員
中村忠久委員、野々瀬由佳委員、橋本昌和委員（代理）、細井啓造委員
松下恭子委員、保岡正治委員、柳澤幸夫委員、山上敦子委員、山口貴功委員
山口浩志委員、山本雅敏委員、横山敦子委員、米本正志委員

3 議事次第

- （1）徳島県地域介護総合確保推進協議会設置要綱の改正と認証評価部会の設置について
- （2）地域医療介護総合確保基金（介護分）令和4年度県計画（案）について
- （3）地域医療介護総合確保基金（介護分）県計画に関する事後評価について
- （4）その他

4 議事概要

（1）（2）（3）に関し、配付資料により事務局から説明したあと、次のとおり意見交換が行われた。

<議事（1）についての意見交換>

【委員】

「認証評価部会」について、施設関係で介護医療院が増えてきているが、この評価とか担当される委員はどなたになるのか。

【事務局】

認証評価部会は、部会員10名で構成しており、施設関連の部会員の方を挙げると、徳島県老人福祉施設協議会、徳島県老人保健施設協議会。

＜議事（2）についての意見交換＞

【委員】

「介護ロボット導入支援事業」について、ロボットを導入しての効果や、離職者等の数字に違いがあるかなど、情報があればお聞きしたい。

【委員】

特に効果があったと感じるのは、腰痛で悩んでいた職員や、それがきっかけで離職する職員が毎年必ずいたが、その職員数が大幅に減った。また、介護ロボットを導入しても使い方の習熟に手間が掛かり、結局あまり活用されないことを危惧していたが、導入後は、移乗など多くの場面で活用している。

【委員】

処遇改善加算について、従業者の方がどのように自分に支払われているのかわからないという相談を受けることがある。このことについて、県の方でも周知をお願いしたい。また、高齢者施設において、ナースコールを抜去していたり、身体的拘束を行っているとの相談も受ける。こういったチェック機能にもお金を使っていただき、安心できる体制づくりをお願いしたい。

【事務局】

処遇改善については、事業所によって配分方法が決められており、事業所内でも従業員に対して必ず周知するよう案内しているが、我々にもそういった問合せや相談があるので、しっかりと周知していきたい。高齢者施設における適切なナースコールの使用ができていないような状況や、虐待と思われる事案については、実地での運営指導の際に重点的に確認するよう取り組んで参りたい。

【委員】

外国人介護人材受入補助事業について、事業内容を教えていただきたい。

【事務局】

事業内容は、介護施設等の行う外国人介護職員とのコミュニケーションを促進する取組や、介護福祉士の資格取得に必要な取組、生活支援に必要な取組等にかかる経費の一部に補助する制度となっている。

<議事（3）についての意見>

【委員】

介護分野就職支援金貸付事業について、支援者が0名だったが、今後これを周知して、たくさんの方が利用していただくには、どのように計画されているか教えていただきたい。

【事務局】

本事業は、各団体の方から、介護分野の就職について、貸付金事業等を拡充して欲しいという要望があり、令和3年度に創設したところ。周知不足などもあるかと思うが、工夫すべき点などについて、ご提案いただければ是非とも参考にさせていただきたい。

【委員】

申請する側からすれば、手続きが面倒であるとか、非常に多くの書類を書かなければいけないなどの負担が大きくて諦める人が結構いると思う。そのため、手続きや書類の簡素化をすれば、利用する方のためになるかと思う。